

第 3 4 号

出典：西日本新聞 2004 年 12 月 8 日 記事
2005 年 3 月 11 日 記事

たし、しかし、心臓病の心筋血流SPECT、R1の集積状況を画像化。本医師は説明する。R1が取り込まれないたに入れたカテーテルとい場合、心筋梗塞や狭心症は、標識として放射性同素する仕組みだ。一九九〇年、心筋血流SPECTに、その部分が黒っぽく、う細かい管から造影剤を注

アトピー性皮膚炎の治療薬としてタクロリムス(商品名プロトピック)軟膏が発売されてから五年。欧米では標準治療薬の一つになったが日本では使いづらいう状況が続いている。動物実験のデータ解釈をめぐる異例の警告文が添付されたため、日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎問題担当理事で金沢大の竹原和彦教授らは「世界中が同じなら仕方ないが日本だけがゆがんだ状況になっている」と懸念している。

アトピー治療薬 国内では警告文

アトピー性皮膚炎の治療薬では以前からステロイド(副腎皮質ホルモン)外用薬が一般的。しかし自治医大皮膚科の大槻マミ太郎教授によると、皮膚委縮などの副作用を起こすことがある。これに対してタクロリムスは炎症が治つてくると皮膚を透過しなくなり、ステロイドのような副作用は起こさない。二〇〇〇年に米国で承認された際に「米国のメデアは『人生を変え、腫というがんが増えた。関係ははつきりしないが外



小児用のアトピー性皮膚炎治療薬「プロトピック軟膏小児用」(藤沢薬品提供)

国内使用中にがんになった人がいる」と説明しないと使えなくなった(竹原教授)。竹原教授によると、これは同年六月、濃度を低くした小児用タクロリムス軟膏の承認を前に、厚生労働省に対し、副作用の危険性を指摘した承認見送りの要望があったことが発端だという。危険性の根拠とされたテ

使いづらさ、現場に波紋

一タについて竹原教授は「がんになりやすいマウスを使った特殊な実験の結果で、人には必ずしも当てはまらない」と指摘。大槻教授も「人では血中濃度がマウスのように上昇しないので、リンパ腫を増加させる可能性はない」。だが「そんな恐ろしい薬を使わなくては」という患者家族が出るなど、以前から使っていた皮膚科の現場でも混乱が広がったという。竹原教授は「皮膚科医は成人での使用経験があるからまだいいが、小児用を初めて使う小児科医には非常に使いづらい状況になってしまった」と指摘している。

紅血

田中 佐代子

ね。わあー、きれいきれい」と、喜んでくれました。私はこの光景を一生忘れられないように、ひとみのシャッターを何度も何度も切つて、脳裏に焼き付けました。あれから九年。友に誘われ、秋桜園に行きました。今年の秋桜は、相次ぐ台風で腰を折られながらも、けなげに根を張り、起き立ち、かわいいう花をつけ、風に揺れていました。長い月日、入退院を繰り返して、体力を消耗する過酷な治療にも耐え、「もう一度、街に洋服を買いに行きたい。もう一度、友達と食事に行きたい」と、一生懸命頑張ったのに。あの日々の彼女と秋桜が重なり、胸の奥が震えました。追影の前に正座して、もう泣かないと誓ったのに。あの日々の秋桜は、きれいだったね」(事務員・62歳、福岡県久留米市)

〈投稿規定〉五百字以内。住所、氏名、年齢、お仕事、電話番号を明記し、〒810-8721 西日本新聞社文化部「紅血」係へ。

つい最近、人間の全遺伝子が解明されたという報道があったことはご存じの方も多いと思います。正確には「ヒトゲノム塩基配列」の解読が終了したという意味です。これから、それを利用した研究、とくに将来的に医療、産業の構造に大きな影響を与える発見が続々と出てくると予想されています。具体的には次回に述べるオーダーメイド治療(個人々にピッタリ合った治療)が可能となる時代もくる



国立病院機構 福岡病院長・西間三肇

ナスにも関係しているからです。そしてその遺伝子の働きが表に出るか出ないか、つまり遺伝子が発現するには種々の環境要因が関与します。しかも、一体、いつその環境にいたか。つまり胎児のときか、乳児のときか、老齢化したときか、などで違ってくる。この領域に極めて詳しい岐阜大学大学院医学研究科の近藤直実教授によれば、アレルギー遺伝子として想定される性質としては、

種々のレベルで亢進させる③発症を抑制する遺伝子の異常により、アレルギー反応のブレーキがかからなくなるなどが複雑にからんでおり研究は困難を極めているとのことでした。

実際の近藤教授らの疫学研究では、A群アレルギー症状を持つ子ども、B群アレルギー体質だけが遺伝するのではなく、症状を示す臓器(人体器官)の過敏性も遺伝するということです。これからの研究でアレル

エンジヨイ春

吉野ヶ里菜の花マーチ

●上

佐賀県神埼郡の吉野ヶ里歴史公園を発着点に春の肥前路 たつて咲く菜の花が、春風にを歩く「第十一回吉野ヶ里菜 揺られ、さらさら」と音を奏でた花マーチ(佐賀県、西日)。

本新聞社など主催)が十九日(土)と二十日(日)に行われる。佐賀の歴史、自然、文化が盛りだくさん。年少組の本告美波ちゃん、見どころを紹介する。

神埼町の城原川沿いに春の花が、咲き始めた。写真は、菜の花が、咲き始めた。写真は、菜の花が、咲き始めた。写真は、菜の花が、咲き始めた。

日本銀行下関支店に勤務する徳永洋さん(五十四)が、「横井小楠」維新の青写真を描いた男(新潮新書、六百八十円)を出版した。横井小楠(一八〇九-一八九九)は、思想家・政治家として幕末維新期に活躍した熊本藩士。同じ熊本市出身である徳永さんは「世にあまり知られていない郷土の先人に再び光を当てたい」と大学時代から研究を重ねてきた。小楠の生涯をたどる本書は徳永さんの研究三十五年間の集大成だ。

横井小楠 再び光を

熊本藩士の二男として生まれた小楠は、藩校時、まったりしたら、ち

黄のじゅうたんが待つ

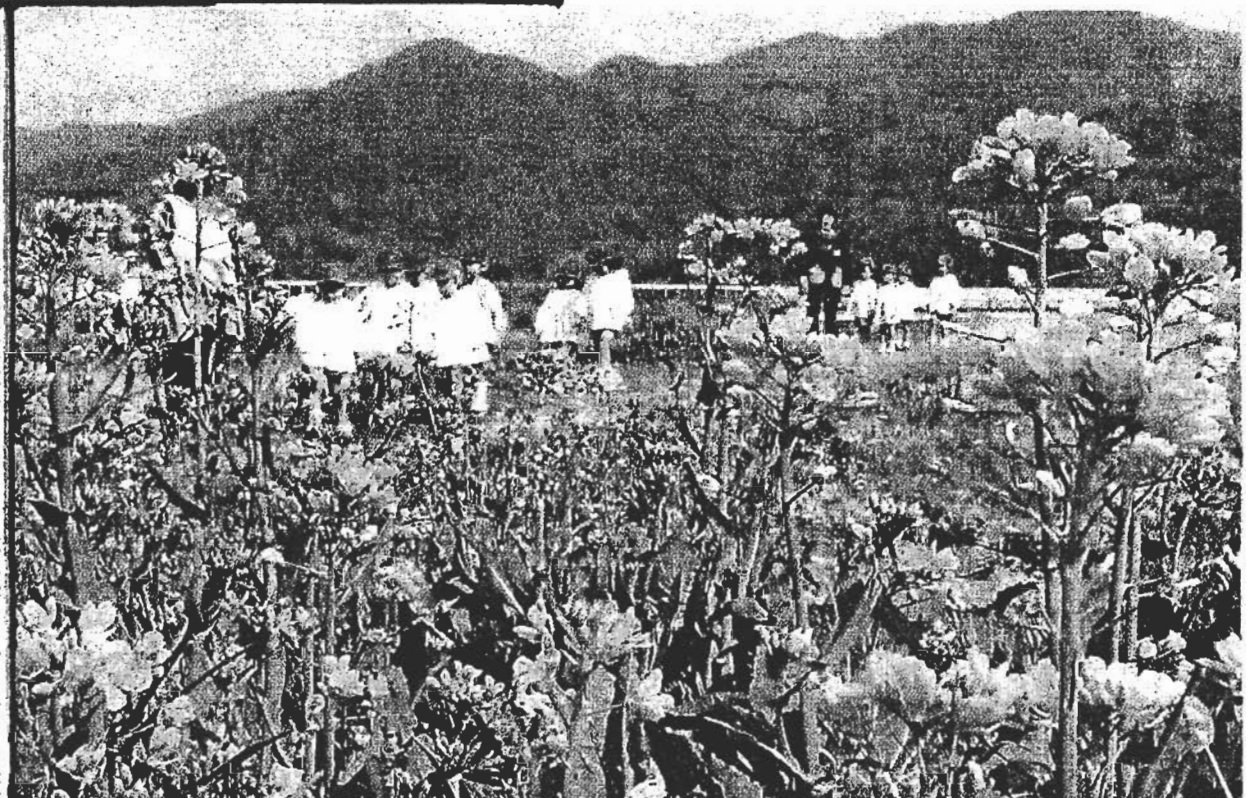
の城原川をはじめ、田手川、筑後川の土手も一面の「黄色いじゅうたん」に変わる。春本番の佐賀平野が、あなたを今か今かと待っている。

第11回吉野ヶ里菜の花マーチ 19日(土)と20日(日)、佐賀県神埼郡の吉野ヶ里歴史公園「市の広場」の各コースを歩きます。雨天決行。事前申し込みは終了。当日参加は会場で受け付けます。参加費(当日)は一般1500円、高校生以下700円(1日だけ、2日間通しとも同額)。実行委員会事務局 0952(29)9213。

アトピー薬に 米当局も警告

藤沢薬品が開発

【ワシントン10日共同】米食品医薬品局(FDA)は十日、藤沢薬品工業が開発したアトピー性皮膚炎治療用軟膏「アロトピック」(一般名・タクロリムス水和物)について「発がんに関連している恐れがある」として、他の薬が効かない場合に限り短期的に使うよう医師に呼び掛けた。販売元には、がんの潜在的な危険について、黒枠で囲んで目立たせる最



も強い警告表示を付けるよう求めた。同種の薬であるノバルティス社(スイスの「エリデル」(日本未発売)についても同

じ対応を要請した。アロトピックは、免疫抑制剤として開発された成分を塗り薬にした新薬。日本では既に小児用

裁判遅刻危うく再逮捕

ジャクソン被告

【ロサンゼルス10日共同】少年に対する性的虐待罪などに問われている米人気歌手、マイケル・ジャクソン被告(四十二)〇〇三年に逮捕後、保釈中IIに對する裁判で十日、同被告が開廷に遅刻し、裁判長が逮捕状を用意する一幕があった。この日は被害者とされる少年に對する証人尋問の二日目で、午前八時半の開廷にジャクソン被告は姿を見せなかった。裁判長は逮捕状を用意、一時間以内に出廷しなければ逮捕状を執行し、三百万(約三億円)の保釈金も没収すると宣言した。

ジャクソン被告はタイムリミットの九時半に数分遅れて到着、再逮捕は免れた。到着時、スリッパを履きハジャマの上にスーツを着た姿だった。

ワカメちゃんの声交代へフジテレビ系で放送中の人気アニメ番組「サザエさん」のワカメ役の声優が、四月三日放送分から交代することが、十一日明らかになった。現在声の出演をしてい

東京4区IIが強制わいせ